

おめでとう、200歳！
八代家住宅の
魅力を
再発見！

八代家でさきどり春祭り 報告

文化庁「NPOによる文化財建造物活用モデル事業」の当法人採択事業「おめでとう、200歳！八代家住宅の魅力を再発見！」の最終イベント「八代家でさきどり春祭り」が2月21日(土)に開かれました。春祭りとは名ばかりの八ヶ岳風が吹く寒さの中、100名を超える大勢のお客さんがいらっやってくださいました。

(内海)

まずは座敷にて、明野のお祭りに伝わる伝統芸能、神楽と獅子舞の披露！

最初は獅子舞。明野町上神取地区の上神取獅子舞愛好会の皆さんが「オンベ」を舞ってくださいました。

明野の獅子舞は、例年小正月の道祖神祭りで奉納されます。上神取では、おやなぎさんが立てられる道祖神場やお祝い事のあった家で、その年の無病息災や五穀豊穡を祝って舞われます。

八代家住宅と、来てくださったお客さまの幸せを祈念して舞っていただきました。

続いては神楽。まずは「こども神楽教室」参加者による「二人剣の舞」。小学5年と中学1年の女の子ペアが、堂々と舞い上げました。続いては、お馴染みの「こども神楽教室」卒業生による「猿田彦命の舞」。お客さんと同じ高さでの舞いは、舞い手にとっては緊張するシチュエーションですが、舞い手の息づかいや衣ずれの音が観ている側にまで伝わってきて、とても

迫力があります。最後は、明野町下神取地区の伊勢神明社神楽保存会の皆さんによる「天宇受売命の舞」。天宇受売命は、天岩戸の神話の中で、岩戸の陰に隠れてしまった天照大神を外に出すために、岩戸の前で踊った女神です。両足を組んだまま足を曲げ、体を沈めこむその舞いに、お客さんも歓声を送っていました。今回、子ども達の舞いの楽も、伊勢神明社神楽保存会の皆さんに



猿田彦命の舞



獅子舞

演奏していただきました。

座敷での伝統芸能の披露の後は、土間に移動して餅つきの始まりです。カマドで蒸したもち米を、石臼を使ってついていきます。餅は餡子ときな粉の2種類の味でいただきます。餅が振る舞われている間、イドコ(板の間)では上神取獅子舞愛好会の方が「マクンベ」を舞ってくださいました。板の間の端に手をかけて、小さな子ども達が食い入るように獅子舞を見つめていました。



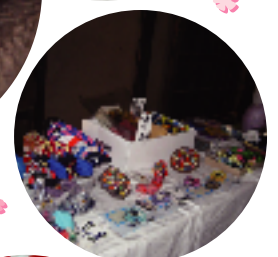
二人剣の舞



天宇受売命の舞



つきたてのおもち



可愛い和雑貨



吊し雛

春祭りと言えば屋台。土間に3つの屋台が出ました。八代家住宅サポーターズの皆さんが、心を込めて準備してくれた甘酒と味噌おでんの屋台。特に甘酒は、車で来た方も安心して飲めるよう、米と米麴だけで作りました。

伝統的なその素朴な味わいにお客さまも大満足。たちまち完売してしまいました。そして、和雑貨の屋台。サポーターズや地域の方の手作り品が、会場を盛り上げてくれました。

今回、会場に彩りを加えてくれたのが吊るし雛。明野にお住まいの何名かの女性がお作りになったもので、皆さん快く貸してくださいました。

ご出演いただいた皆さん、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

これで、「おめでとう、200歳！八代家住宅の魅力を再発見！」事業は終了しますが、来年度以降も、かやぶんとサポーターズの皆さんでの八代家住宅の活用事業は続けていきたいと思っています。サポーターズも継続して募集します。ご協力と応援をどうぞよろしく願いいたします。